

## **BAB IV**

### **PENUTUP**

#### **A. Simpulan**

Berdasarkan pada uraian bab sebelumnya, dapat disimpulkan hasil penelitian sebagaimana yang diuraikan di bawah ini:

1. Fungsi partikel *ni* yang terdapat pada buku "*Nihongo Shoho*" adalah sebagai berikut:
  - a. Menunjukkan posisi, tempat, letak atau keberadaan sesuatu.
  - b. Menunjukkan waktu.
  - c. Menunjukkan tempat tujuan pergerakan atau titik kedatangan.
  - d. Menunjukkan tujuan dari suatu aktifitas atau kegiatan.
  - e. Menunjukkan obyek yang dituju, sasaran atau penerima sesuatu.
  - f. Mengindikasikan agen (pelaku) atau asal (sumber).
  - g. Menunjukkan obyek atau sasaran berupa benda mati.
  - h. Menunjukkan rentang waktu (ruang lingkup waktu).
  - i. Menerangkan keadaan sesuatu.
  
2. Fungsi partikel *ni* yang terdapat pada buku "*Minna no Nihongo Shokyuu I* dan *Minna no Nihongo Shokyuu II*" adalah sebagai berikut:
  - a. Menunjukkan posisi, tempat, letak atau keberadaan sesuatu.
  - b. Menunjukkan waktu.
  - c. Menunjukkan tempat tujuan pergerakan atau titik kedatangan.
  - d. Menunjukkan tujuan dari suatu aktivitas atau kegiatan.
  - e. Menunjukkan obyek yang dituju, sasaran atau penerima sesuatu.
  - f. Mengindikasikan agen (pelaku) atau asal (sumber).
  - g. Menunjukkan obyek atau sasaran berupa benda mati.
  - h. Menunjukkan arah.

- i. Menunjukkan hasil perubahan.
  - j. Menunjukkan rentang waktu (ruang lingkup waktu).
  - k. Menerangkan keadaan sesuatu.
3. Persamaan dan perbedaan ruang lingkup materi dari segi fungsi pada buku *Nihongo Shoho, Minna no Nihongo Shokyuu I*, dan *Minna no Nihongo Shokyuu II* adalah sebagai berikut:

**Tabel 4.1:** Persamaan dan perbedaan ruang lingkup materi fungsi partikel *ni* pada buku “*Nihongo Shoho, Minna no Nihongo Shokyuu I* dan *Minna no Nihongo Shokyuu II*”

No	Fungsi Partikel <i>Ni</i>	NS	MNNSI	MNNSII
1	Menunjukkan posisi, tempat, letak atau keberadaan sesuatu.	○	○	○
2	Menunjukkan waktu.	○	○	○
3	Menunjukkan tempat tujuan pergerakan atau titik kedatangan.	○	○	○
4	Menunjukkan tujuan dari suatu aktivitas atau kegiatan.	○	○	○
5	Menunjukkan obyek yang dituju, sasaran atau penerima sesuatu.	○	○	○
6	Mengindikasikan agen (pelaku) atau asal (sumber).	○	○	○
7	Menunjukkan obyek atau sasaran berupa benda mati.	○	○	○
8	Menunjukkan arah.	△	△	○
9	Menunjukkan hasil perubahan.	△	○	○
10	Menunjukkan rentang waktu (ruang lingkup waktu).	○	○	○
11	Menerangkan keadaan sesuatu.	○	○	○

Keterangan: ○ : ditemukan

△ : tidak ditemukan

## B. Saran

- 1) Peneliti hanya menganalisis penggunaan partikel *ni* pada ketiga buku tersebut, untuk itu bagi peneliti selanjutnya dapat menganalisis penggunaan partikel lain yang memiliki kesamaan fungsi dengan partikel *ni*, yang sama-sama dapat berarti “di” seperti partikel *de*, dan *o*. Lalu menguraikan perbedaan dari ketiga partikel tersebut.
- 2) Karena pada ketiga buku pelajaran tersebut belum ditemukan fungsi partikel *ni* untuk menunjukkan alasan atau penyebab terjadi sesuatu, maka bagi peneliti selanjutnya dapat meneliti buku pelajaran bahasa Jepang lain yang memiliki fungsi partikel *ni* untuk menunjukkan alasan atau penyebab terjadi sesuatu.
- 3) Penelitian ini disarankan dapat diterapkan dalam pembelajaran bahasa Jepang. Misalnya bagi pengajar, dapat dijadikan acuan untuk membuat bahan ajar, terutama pada pembelajaran tata bahasa yang berhubungan dengan partikel *ni*. Sedangkan untuk pembelajar penelitian ini dapat dijadikan referensi untuk memahami fungsi-fungsi atau penggunaan partikel *ni*.

# 日本語教科書の格助詞「に」の機能分析

ゼトリ・アメリア  
20150830040

## 要旨

助詞は日本語の文法の1つである。助詞の数はかなり多い、それに、どのような意味を持ついくつかの助詞がある。例えば、「に」という助詞である。それで日本語学習は助詞の使いかたや機能を理解しにくい。助詞の使い方を分かることが大切であるため、「に」の助詞を研究することがひつようだと考える。本研究は、「日本語の格助詞「に」の機能分析」という焦点を当てる。

本研究では、教科書の「日本語初歩」、「みんなの日本語初級 I」と「みんなの日本語初級 II」にデータを収集し、これらの助詞の機能を分析した。本研究で使用された方法は、記述的方法である。分析結果は、「日本語初歩」では「に」の助詞は9つの機能がある。一方、「みんなの日本語初級 I」は10つ、と「みんなの日本語初級 II」では、11つの機能があるということが分かった。3冊すべての資料の範囲がほぼ同じである。

「日本語初歩」では、方向を示す機能、変化の結果、理由、または何らかの事態を引き起こす機能を持っている文が見つけなかった。それに対して、本書「みんなの日本語初級 I」では、助詞を使った文章は見つかったが、その意味や原因を示す機能である。一方、理由や原因を示す機能が本書「みんなの日本語初級 II」では見つけなかった。一方、理論的には、何かの原因や原因を示す助詞の機能を見つけたが、その機能は精密な3冊では見つけない。

キーワード：助詞、格助詞、機能、日本語初歩、みんなの日本語

## 1. 序論

助詞は日本語学習では非常に難しい。日本語学習者の友達とのインタビューに基づき、10人中8人の「助詞の使用は日本語を学ぶのにはかなり複雑だ」と答えた。これは、日本語学習に含まれる助詞の数が多いためである。

さらに、助詞の理解の困難さは、同様の意味を有するいくつかの粒子の存在によっても引き起こされる。助詞「に」、「で」、「を」の役割は、イベントの場所を示すときとほぼ同じである。イベントの位置を示す文では、助詞の「に」、「で」と「を」、どちらも“in”の意味を持っている。

上記の意味の類似性のために、したがって、日本人の学習者は、誤使用を避けるために、助詞をよく理解する必要がある。助詞を使用する際のエラーは文の意味に影響するため、したがって、搬送されるメッセージは適切に伝えられない。

彼らが後に教師になるように、そして、学習者に不適切な説明を付した助詞を使用することを教え、それは、学習者を助詞の使用について誤った理解に陥れる可能性がある。そのような誤りは、言語教育の目的を妨げる可能性がある。そして、生徒によって作られた、または行われた言語の誤りは、教授がうまくいかなかったことを示している。また、翻訳者になるために後で従業員として働く場合は、実際の意味とは異なる翻訳結果が表示される。

加えて、日本語での助詞の使用は非常に重要であり、日本語能力テストではよく出てくるだから。したがって、研究者は粒子を研究する。この研究では、研究者は、助詞の機能や使用方法を知る上でのより良い理解を得ることを望んでおり、特に「に」の助詞の使用する。

本研究では、教科書が「日本語初歩」、「みんなの日本語初級 I」と「みんなの日本語初級 II」に収録されているこれらの「に」の助詞の機能を分析した。著者は、研究の対象となる本のいくつかの機能や「に」の助詞の使用に関する理論と一致する。本研究の目的は、両教科書に含まれている格助詞助詞「に」の様々な機能を伝えることである、だから、両方の本の「に」助詞の議論の範囲を知ることができる。

## 2. 本論

### A. データおよび研究の方法

本研究は定性的な記述方法を用いている。定性的研究とは、天然物の状態をデータソースに直接的に調べる方法であり、研究者は研究の重要な手段である (Sugiyono, 2015)。

Panelewen の Sugiyono (2015 : 8-9) 分析の記述方法は、実際のデータに基づいてデータを収集して研究する方法であると述べている、分析の記述方法は、実際のデータに基づいてデータを収集して研究する方法であると述べている、次にデータの整理、処理、分析を行い、問題の概要を提供する。

本研究では、「日本語初歩」や「みんなの日本語初級 I」や「みんなの日本語初級 II」という本の中で、助詞の機能と意味を分析した。その後、得られたデータは記述的方法を用いて分析され、すなわち、両方の本に含まれるこれら「に」の助詞の機能に関するデータを記述し、記述することによって達成される。したがって、本研究の定性的な記述方法は、本書の「日本語初歩」や「みんなの日本語

初級Ⅰ」や「みんなの日本語初級Ⅱ」に含まれるこの助詞の機能に関連する問題を分析、記述、または記述するために使用される。

本研究では、著者は文献レビューと文献調査の形式で文書化技術を使用している。このテクニックは、本書「日本語初歩」や「みんなの日本語初級Ⅰ」や「みんなの日本語初級Ⅱ」の中で、「に」の助詞を使った様々な文章を聴いて録音することによって行われる。上記のデータ収集技術の結果に基づいて、本研究の楽器は本やペンやパーソナルコンピュータで構成されていると結論付けることができる。

データ分析の段階は非常に決定的な段階ですが、この段階で収集されたデータが分析されるためである。本研究でのデータ解析は、「に」の助詞を用いて文章データを収集し、次にすべての文章中の「に」の助詞の関数を分析し、機能に基づいて文章データを分類し、「日本語初歩」や「みんなの日本語初級Ⅰ」と「みんなの日本語初級Ⅱ」の本に登場したこれらの「に」の助詞の機能の違いを観察し、これらの3冊の本の中の「に」の助詞の範囲の違いのポイントを説明する。最後に結論が導き出されている。

## B. 分析の結果と考察

完了した場合のデータの結果に基づいて、「日本語初歩」という本には9つ「に」助詞の関数がないことが分かった。これらの機能には、次のものがある：

1. 位置、場所、場所または何かの存在を示す。
2. 時間を表示する。

3. 移動または到着地点の位置を示す。
4. アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。
5. ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。
6. エージェント（役者）、起点（資源）を示す。
7. 無生物の形で物体または標的を示す。
8. 時間の範囲を示す。
9. 物事の状態を説明する。

本書には、「みんなの日本語初級 I」は10つの機能、と「みんなの日本語初 II」には11つの機能があるが、これらの機能には、次のものがある：

- a) みんなの日本語初級 I 中の「に」助詞の機能：
  1. 位置、場所、場所または何かの存在を示す。
  2. 時間を表示する。
  3. 移動または到着地点の位置を示す。
  4. アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。
  5. ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。
  6. エージェント（役者）、起点（資源）を示す。
  7. 無生物の形で物体または標的を示す。
  8. 変更の結果を表示する。
  9. 時間の範囲を示す。
  10. 物事の状態を説明する。

b) みんなの日本語初級 II の中の「に」助詞の機能：

1. 位置、場所、場所または何かの存在を示す。
2. 時間を表示する。
3. 移動または到着地点の位置を示す。
4. アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。
5. ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。
6. エージェント（役者）、起点（資源）を示す。
7. 無生物の形で物体または標的を示す。
8. 方向（方向またはターゲットに面している）を示す。
9. 変更の結果を表示する。
10. 時間の範囲を示す。
11. 物事の状態を説明する。

上記の説明に基づいて、「日本語初歩」、「みんなの日本語初級 I」と「みんなの日本語初級 II」の本では、助詞の範囲はほぼ同じであることがわかる。唯一の違いは、方向、変化の結果、起こったことの理由または原因を示す助詞の機能にある。本書「日本語初歩」には、方向を示す関数、変化の結果、理由、または何らかの事態を引き起こす関数を持っている文があわない。

それに対して、本書では、「みんなの日本語初級 I」という言葉には、助詞を使った文章はありませんが、その意味や原因を示す機能である。一方、本書では、「みんなの日本語初級 II」には見つからなかったため、ミリアンペア

を使用する文章には、理由や原因を示す機能がある。一方、理論的には、何かの原因や原因を示す助詞の機能を発見しましたが、その機能は本書「日本語初歩」や「みんなの日本語初級 I」と「みんなの日本語初級 II」の著者ではあわない。

### C. 結び

研究成果の概要を以下に示す：

1. 本書「日本語初歩」に含まれる「に」の助詞の関数は次のとおり：

- a) 位置、場所、場所または何かの存在を示す。
- b) 時間を表示する。
- c) 移動または到着地点の位置を示す。
- d) アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。
- e) ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。
- f) エージェント（役者）、起点（資源）を示す。
- g) 無生物の形で物体または標的を示す。
- h) 時間の範囲を示す。
- i) 物事の状態を説明する。

2. 「みんなの日本語初級 I」と「みんなの日本語初級 II」の中の「に」助詞の機能：

- a) 位置、場所、場所または何かの存在を示す。
- b) 時間を表示する。
- c) 移動または到着地点の位置を示す。

- d) アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。
- e) ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。
- f) エージェント（役者）、起点（資源）を示す。
- g) 無生物の形で物体または標的を示す。
- h) 方向（方向またはターゲットに面している）を示す。
- i) 変更の結果を表示する。
- j) 時間の範囲を示す。
- k) 物事の状態を説明する。

3. 本書の機能の面での類似点と相違点は、本書、「日本語初歩」、「みんなの日本語初級 I」、と「みんなの日本語初級 II」の内容は次のとおり：

No	「に」助詞の機能	NS	MNNSI	MNNSII
1	位置、場所、場所または何かの存在を示す。	○	○	○
2	時間を表示する。	○	○	○
3	移動または到着地点の位置を示す。	○	○	○
4	アクティビティまたはアクティビティの目的を示す。	○	○	○
5	ターゲットオブジェクトやゴールまたは受信者の何かを表示する。	○	○	○
6	エージェント（役者）、起点（資源）を示す。	○	○	○
7	無生物の形で物体または標的を示す。	○	○	○
8	方向（方向またはターゲットに面している）を示す。	△	△	○
9	変更の結果を表示する。	△	○	○
10	時間の範囲を示す。	○	○	○

11	物事の状態を説明する。	○	○	○
----	-------------	---	---	---

提案：

- 1) 時間制約のため、研究者は3冊の本でのこれら「に」の助詞の使用のみを分析することができるので、後の研究者にとっては、「に」の助詞と同様の機能を有する他の助詞、たとえば、「で」、「を」の助詞である。次に、3つの助詞の違いを説明する。
- 2) 3つの教科書は、理由を示したり何らかの事態を起こしたりする助詞の機能を発見していないので、次の研究者には、「に」助詞の機能を有する他の日本語教科書を調べる。
- 3) この研究では、研究者は質的記述方法、すなわち得られたデータを記述または記述するだけでよい。さらなる研究のために、より興味深い研究方法を見出すことが期待される。
- 4) この研究には、日本語の学習に応用されることが示唆されている。たとえば、教師にとっては、文法の教授、特に「に」の助詞に関連する学習にどの書籍が適しているかを選択する際のベンチマークとして使用できます。学習者にとって、この研究は、「に」の助詞の機能または使用を理解するための参照として使用することができる。

#### 4. 引用文献・参考文献

- Achmad dan Alek Abdullah, 2013. *Linguistik Umum*. Jakarta : Penerbit Erlangga.
- Arifah, Nur. 2016. *Panduan Mudah & Praktis Menyusun Skripsi – Tesis dan Disertasi Lengkap Dengan Teknik Jitu Menyusun Proposal Agar Segera Disetujui*. Yogyakarta : Araska
- Chaer, Abdul. 1995. *Pengantar Semantik Bahasa Indonesia*. Jakarta : PT. Rineka Cipta
- Chandra, T. 2015. *Nihongo no Joshi : Partikel Bahasa Jepang*. Evergreen: Jakarta Pusat.
- Carolina, Elisa M. 2008. “Analisis Kesalahan Penggunaan Partikel Ni dan De”. *Jurnal Lingua Cultura*. .46 (2), 46-58.
- Ghufron, Syamsul. 2015. *Kesalahan Berbahasa : Teori dan Aplikasi*. Yogyakarta : Penerbit Ombak.
- Iori, Isao dkk. 2000. *Nihongo Bunpō Handobukku*. Tokyo: Japan
- Makino, Seiichi dan Michio Tsutsui. 1986. *A Dictionary of Basic Japanese Grammar*. Tokyo: Japan.
- Muhammad. 2014. *Metode Penelitian Bahasa*. Jogjakarta : Ar-Ruzz Media.
- Novianti, Diyah Wahyu. 2016. “Error Analysis Using Particles De, Ni and O in Japanese Learning Sentence”. *Jurnal Japanese Literature*. 2, (2), 3.
- Oktavianti, Ratna Nurlinda. 2012. *Analisis Kemampuan Pembelajar Bahasa Jepang dalam Penggunaan Kakuji “No”*: Skripsi Pendidikan Bahasa Jepang Universitas Pendidikan Indonesia. Tersedia:  
[http://repository.upi.edu/10583/2/s\\_jep\\_0808156\\_chapter1.pdf](http://repository.upi.edu/10583/2/s_jep_0808156_chapter1.pdf)
- Otsuka, Hiroko. 2010. *Bahan Kuliah Bunpou*.
- Panelewen, K.Y.K. 2015. Analisis Makna Partikel “Ni” Dalam Cerita “Momotaro” Karya Tsubota Jouji. *Jurnal Elektronik Fakultas*

*Sastra Universitas Sam Ratulangi.* Tersedia:  
<https://ejournal.unsrat.ac.id/index.php/jefs/article/view/9024/8578>

Sadewa, Yoel. 2006. *Bahasa Jepang Yang Mudah Yasashi Nihongo*. Yogyakarta: Media Abadi.

Saputra, A.R dan Bayu S.W. 2015. *Jago Kuasai Bahasa Jepang*. Yogyakarta : Penerbit Pustaka Baru Press.

Sari, Silvia Purnama. 2012. *Analisis Makna Pasca Posisi Ni Dalam Novel Kitchin Karya Banana Yoshimoto*. Skripsi Sarjana Strata 1 pada Fakultas Ilmu Budaya Unand Padang. Tersedia:  
<http://repository.unand.ac.id/19874/1/cover%20baru.pdf>

Semita, M.J dan Tee Han Hok. 2016. *Belajar Tata Bahasa & Percakapan Bahasa Jepang Level Menengah*. Yogyakarta: Pusat Kajian Bahasa.

Siti Maslakhah, dkk. 2011. *Bahasa Indonesia: Panduan Menulis Karya Ilmiah*. Yogyakarta: Kanwa Publisier.

Sudjianto dan Ahmad Dahidi. 2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Jakarta: Kesaint Blanc.

Sugiono. 2015. *Metode Penelitian Kuantitatif, Kualitatif, dan Kombinasi (Mixed Methods)*. Bandung: Alfabeta.

Sujarweni, V. Wiratna. 2014. *Metodologi Penelitian*. Pustaka Baru Press: Yogyakarta.

Sutedi, Dedi. 2008. *Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang: Nihongo gaku no kiso*. Bandung: Humaniora.

Sutedi, Dedi. 2015. *Penelitian Pendidikan Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora.

The Japan Foundation. 1985. *Nihongo Shoho*. Tokyo, Japan.

Tunjungsari, Nila. 2017. *Fukugoukakuji Ni Tsuite dan Ni Kanshite*. Skripsi Universitas Diponegoro Semarang. Tersedia:  
<http://eprints.undip.ac.id/52090/1/Skripsi.pdf>